

海村に春祭りの季節がきた



石原義剛  
(海の博物館館長)

今では海村の正月行事はほとんどが1月になってきているが、忘れられつつある旧正月に行くところも多い。

志摩半島などは2月旧正月、浦(集落)人が全員参加して、神祭(じんざい)とか神事(じんじ)と呼んで、獅子舞や弓引きを行い、一年の浦中安全とともに大漁満足を祈願する。

活気があるのは鳥羽市答志の神祭である。

クライマックスはやはり弓引きの神事。紙張りのお的(まと)にはたっぷりりと消し炭入りの泥が盛られている。浦の真ん中、狭い路地の的場

持ち込まれたお的に向かって、形ばかりに弓が引かれ矢が放たれると待ってましたとばかり子どもたちが駆け寄って、お的を奪い合う。



▲お的を運ぶ若者たち



▲弓引きを待つ人々

◀獅子は左上のブリを狙っている



奪い取ったお的の黒泥で、各自が玄関口に丸に八の印を描く。八は八幡さんの八、末広がり八。不幸疫病退散の魔よけでもある。

お的行事が終わると、特設舞台上で獅子舞があり、口に入りかねるほどの大きなブリを獅子が飲み込んで拍手喝采となる。その後は手踊りとカラオケ大会。老若男女、浦を挙げての旧正月行事である。

今年の神祭は休日を挟んで2月13日〜15日に変更。祭りも平日にはやりにくくなっている。

海村の人々はなぜ2月の旧正月に海の祭りをするのかしら。2月は寒い。近年、暖冬とはいえ、厳冬期と陸の人は思い込んでいます。

そんな時、もう海の中は海藻の芽吹きが見られ、生き物のざわめきが聞こえ、春がはじまっている。

若芽が一日に数十センチも成

長する。だからワカメは若布・稚布と書くのだろう。昨年に生まれた稚魚も冬を乗り越えて逞しく育っている。身を縮めていた子貝たちも岩陰から日差しに向かって動き出す。漁師たちは、神祭が無事終わると、海に春の来ることを知っている。いよいよ漁の季節がはじまる。

ところが伊勢湾口の答志島では近年、海藻の繁茂が見られなくなってきた。海水の汚染が忍びよっているのだ。藻場で素潜り漁をする海女たちの真剣な声を聞いて、島の青年たちが海藻の再生に乗り出した。5年の苦闘の結果、以前のような海藻の森が見られるようになってきた。今年の答志の神祭は、海の神様に願いを込めて、きつと賑やかなことだろう。

石原義剛(いしはらよしきた)  
1937年、津市生まれ。60年、名古屋のテレビ放送局入社。69年同退社後、「海の博物館」(三重県鳥羽市)創設を経て、現在に至る。「海の博物館」館長。三重大学客員教授。鳥羽市在住。「伊勢湾―海の祭り 港の文化―」「熊野灘―海の熊野古道を歩く―」など著書あり。

Joy China 信楽 各種ご宴会にご利用下さい 10名様より 昭和区山手通り3丁目 シンシア山手2F ☎832・1221

日本料理 加瀬 名古屋市中区栄三丁目二十一番(251) 7688 ☎(0565) 3415915

DA noi 麻布ダノイ 名古屋店 〒460-0008 名古屋市中区栄3-6-1(ラシック8F) TEL(052)259-6754 年中無休 ランチ/11時~14時半(LO) ディナー/17時~21時半(LO)

御菓子子 花乃舎 桑名市南魚町88 ☎(0594)22-1320 名鉄百貨店 中部近鉄百貨店四日市店

THE WESTIN NAGOYA CASTLE ウェスティンナゴヤキャッスル 〒451-8551 名古屋西区樋の口町3-19 (名古屋城西堀端) tel.052-521-2121 http://www.castle.co.jp

時雨蛤 貝新 水谷新太郎 本社/桑名市有楽町41 ☎(0594)22-2625(代) ●直売店・有名デザートでお求めください。